

## 生産流通科における科目「農業経済」の効果的な展開と指導法について

### ー流通経済分野の興味・関心を深める取組ー

千葉県立 ○○○○ 高等学校 ○○ ○○ (農業)

#### 1 はじめに

本校、生産流通科の学科目標は「農業生産の基礎的・基本的技術と生産物の加工・流通，ならびに情報処理，会計処理に関する知識・技術の習得を通して，社会の変化や情報化など時代の進展に対応できる実践的な能力を備えた人間性豊かで創造性に富む産業人を養成する。」「流通経済及び食品製造の2コースを設置する。」である。流通経済コースでは「農業経営」，「農業経済」，「農業情報処理」，食品製造コースでは「食品製造」，「食品化学」及び「微生物基礎」の専門科目を，それぞれ2年次から学習している。流通経済コースの学習は，情報処理や簿記，ビジネスマナーなどの資格取得を中心としており，食品製造コースでは，パンやジャムの製造実習を展開している。生産流通科の生徒については，平成18年度入学生から，女子生徒の比率が急増し，平成24年度の男女比は学科全体で男子7%，女子が93%である。

科目「農業経済」は流通経済コースの生徒が2年次に2単位，3年次に選択科目として2単位履修する。この科目の目標は，「農業及び食品産業の経済活動に関する知識と技術を習得させ，流通及び市場の原理を理解させるとともに，流通の改善を図る能力と態度を育てる。」である。そこで，これらを踏まえ本校生産流通科での効果的な展開と指導方法を研究することを目的とした。具体的には，生徒の実態に合わせた授業改善として，ICT (Information and Communication Technology) = (情報通信技術) の活用により，農産物や加工食品の市場や経済活動についての効果的な学習方法と評価方法について研究する。また，今回の新学習指導要領改訂の要点として挙げられている「言語学習の充実」について，NIE (Newspaper In Education) = 新聞活用学習により，情報を取捨選択し，活用・発信する能力を養う方法と評価方法について研究を行う。

#### 2 研究方法

これまで，「農業経済」の授業では2年次に，「流通経済の基礎的な学習」と「ビジネス系資格取得」を中心に学習し，3年次には科目「課題研究」と連携し，コンピュータを利用した経済・市場についての調べ学習や，ポートフォリオ作成・発表等を中心に実施していた。

本研究では，次のような内容を取り入れることにより，「農業経済」に関する興味・関心を高めるための効果的な指導方法を検討する。実施前後で生徒にアンケート調査を実施して，導入後の効果について検証する。

##### (1) 生徒の実態調査 (アンケート)

ア 生産流通科生徒への実態調査を実施し，研究主題の参考とする。

##### (2) ICT (情報通信技術) の活用による授業改善

ア パソコン・プロジェクト等を活用した授業展開

イ 映像コンテンツ・ライブラリの構築と活用，評価方法について

##### (3) NIE (新聞活用学習) について

ア 授業への新聞活用学習の展開および評価方法について

イ 情報収集およびデジタル新聞の製作

### 3 研究計画

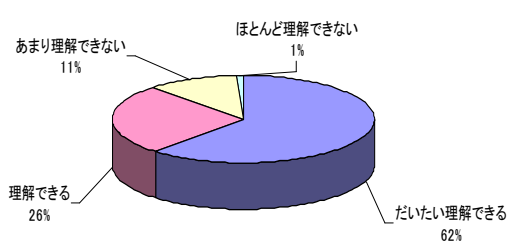
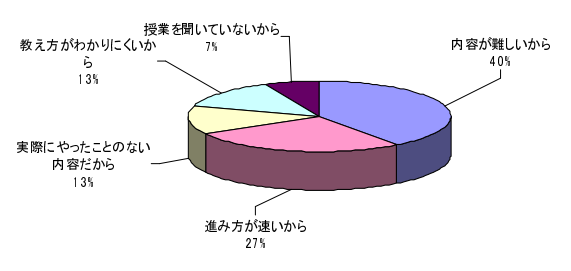
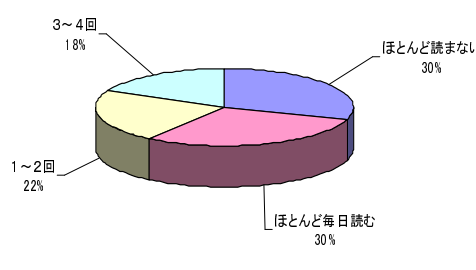
本校生産流通科平成24年度流通経済コース2年生（18名）を対象に、以下に挙げた項目を軸として進めるように計画した。各年度の発表・まとめの段階でアンケート調査を行い、その効果についての検証を行うこととした。

学期	月	平成24年度	平成25年度
1学期	4		NIEの活用授業 ●
	5	計画立案 ICTの活用授業 ●	新聞情報スクラップ ●
	6	生徒の実態調査（アンケート）	
	7		アンケート調査
2学期	8		
	9		デジタル新聞作成 ●
	10		
	11		樟陽祭展示
	12	●デジタル新聞作成	研究のまとめ
3学期	1	↓NIEの活用授業 ●	
	2	生徒相互評価	
	3	アンケート調査	

### 4 研究内容・結果・考察

#### (1) 生徒の実態調査（アンケート）

<p><b>Q1 本校生産流通科を志望した理由は何ですか？</b></p> <p>流通やコンピュータに興味・関心があるから 8%</p> <p>流通・販売・サービス関係の進学を考えて 9%</p> <p>学力的な選択 12%</p> <p>流通・販売・サービス関係の就職を考えて 20%</p> <p>その他 7%</p> <p>コンピュータや簿記等の資格取得 44%</p>	<p>44%の生徒がコンピュータや簿記などの資格取得を目的として志望している。学力的な選択も見られるが、流通・販売・サービスなどに興味・関心がある生徒が多く在籍しており、学科の目指す目標を生徒が概ね理解していることが推察される。</p>
<p><b>Q2 本校生産流通科で学びたいことは何ですか？</b></p> <p>サービスやビジネスマナー、秘書に関する知識・技術 8%</p> <p>簿記や会計に関する知識・技術 8%</p> <p>特になし 4%</p> <p>パンやジャムなどの食品加工に関する知識・技術 39%</p> <p>コンピュータや情報処理に関する知識・技術 41%</p>	<p>41%の生徒がコンピュータや情報処理の知識技術を学びたいと回答した。また、食品加工に関する知識技術についても、同程度の割合が多かった。2年次にコース選択をするため、ほぼ均等に分かれたのではないかと思われる。資格について学びたいという生徒の割合が続いて多くなっている。</p>

<p style="text-align: center;"><b>Q3 専門教科の授業は理解できますか？</b></p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>だいたい理解できる</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>理解できる</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解できない</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>ほとんど理解できない</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	だいたい理解できる	62%	理解できる	26%	あまり理解できない	11%	ほとんど理解できない	1%	<p>専門教科の理解度については、88%の生徒が「理解できる」、または「だいたい理解できる」と回答した。かなり高い割合であるが、学習内容は理解しているものの、更に深い内容について効果的に指導すれば、より大きな学習成果が得られるのではないかと推察される。</p>		
理解度	割合												
だいたい理解できる	62%												
理解できる	26%												
あまり理解できない	11%												
ほとんど理解できない	1%												
<p style="text-align: center;"><b>Q4 Q3で「あまり理解できない」と「ほとんど理解できない」を答えた人のみ・理解できない理由は何だと思いますか？</b></p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>理由</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内容が難しいから</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>進み方が速いから</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>実際にやったことのない内容だから</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>教え方がわかりにくいから</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>授業を聞いていないから</td> <td>7%</td> </tr> </tbody> </table>	理由	割合	内容が難しいから	40%	進み方が速いから	27%	実際にやったことのない内容だから	13%	教え方がわかりにくいから	13%	授業を聞いていないから	7%	<p>理解できない理由については、「内容が難しい」、「進みが早い」などが約7割を占めた。内容を効果的に分かりやすく、進み方を工夫することにより、理解できない生徒にも、学習成果が得られるようになるのではないかと考えられる。</p>
理由	割合												
内容が難しいから	40%												
進み方が速いから	27%												
実際にやったことのない内容だから	13%												
教え方がわかりにくいから	13%												
授業を聞いていないから	7%												
<p style="text-align: center;"><b>Q5 1週間に何回くらい新聞を読みますか？</b></p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほとんど毎日読む</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>1～2回</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>3～4回</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>ほとんど読まない</td> <td>30%</td> </tr> </tbody> </table>	回数	割合	ほとんど毎日読む	30%	1～2回	22%	3～4回	18%	ほとんど読まない	30%	<p>NIE学習の事前調査として、新聞にどれだけ親しんでいるか調査した。結果は「ほとんど読まない」生徒が3割を占めた。</p> <p>また、「週に数回程度読む」と、「ほとんど毎日読む」という生徒の数を合わせると7割の生徒が何らかの形で日頃から新聞に接していることがわかった。</p>		
回数	割合												
ほとんど毎日読む	30%												
1～2回	22%												
3～4回	18%												
ほとんど読まない	30%												
<p><b>Q6 新聞のどんな記事を読みますか（複数回答）</b></p> <p>テレビ番組（18）、スポーツ（8）、トップニュース（9）、マンガ（8）、天気予報（7）、芸能（12）、地域版（8）、政治経済（8）、社会面（2）、投書欄（1）、小説（1）、読書（2）、囲碁将棋（1）、ファッション（10）、株（1）、クイズ（12）、見出し（11）、気になる記事（2）、社説（9）</p>	<p>読む記事の内容を調査してみると、テレビ番組の欄を読む生徒が大多数で、ニュースなど他の情報については新聞からはあまり得ていないようである。目の止まるテレビ覧だけではなく、開いて時間をかけて読むようにすれば、経済や社会面などにも興味・関心を持てるのではないかと考えられる。</p>												

(2) ICT（情報通信技術）の活用による授業改善

ICTとは、情報や通信に関連する技術一般の総称のことで、一般的には「情報通信技術」と訳される。文部科学省や教育の分野では「情報コミュニケーション技術」と訳されている。「IT（Information Technology：情報技術）」とほぼ同様の意味で用いられており、ITよりコミュニ

ケーションを強調した表現で、国際的には欧州を中心に「ICT」が定着している。本研究での「ICT」はパソコン、プロジェクタ、デジタルカメラ、ビデオカメラ、実物投影機等のハードウェアと、WebサイトやDVD-ROM、教育映像資料等のソフトウェアを合わせたものとしている。

授業におけるICT活用とは、その授業の目標達成のためにICTを活用することを指す。授業におけるICT活用は、生徒がICTを活用して学習する場合と、教員がICTを活用して指導する場合がある。いずれの場合においてもICTの活用の主たる目的は、学習指導要領に示されている教科等の目標の達成である。なお、文部科学省では、すべての教員のICT活用指導力の向上のために、「教員のICT活用指導力の基準」(平成18年10月)において具体的なICT活用指導力の基準を示している。

#### ア パソコン・プロジェクタを活用した授業展開

パソコンとプロジェクタを使用し、プレゼンテーションソフトを利用した「農業経済」の授業を行った。内容は2年次に「流通・経済の基礎」を中心に「世界の食料事情」、3年次に「農産物の流通と経済」を中心に「食料自給率」、「フードロス」、「環太平洋経済連携協定」の内容を取り上げた。

また、この授業に関する生徒の意識調査も実施し、改善点を検討した。

##### (ア) パソコン・プロジェクタを活用した授業のメリット

- a 写真や動画が利用でき、生徒の興味・関心を高められる。
- b データを資料等に活用できる。
- c データを蓄積し、次年度以降も利用でき、再構築も手軽にできる。
- d 黒板に板書が最小限度で済む分、生徒を観察して指導することが容易になる。

##### (イ) パソコン・プロジェクタを活用した授業のデメリット

- a 機器類の設置、後片付けが大変である。
- b 室内が明るいとスクリーン(画面)が見づらい。暗くすると生徒がノートに書くのが困難である。
- c 授業の展開が速くなる傾向があり、生徒がノートに書くのが間に合わないことがある。
- d スクリーンの内容を、ノートに書き写す時間がかかりすぎることもある。

##### (ウ) パソコン・プロジェクタを活用した授業の改善点

- a 機器類はセットにし、簿記室にセットした。常に簿記室で授業ができるようにした。
- b 室内が明るくても、十分見ることが可能な明るさのプロジェクタ(3,000lm)を導入した。
- c 授業で使うスライドの情報量を調節した。
- d 全員が書き終わるスライドを、最大5枚程度に限定した。生徒にも事前に説明してから授業を開始した。

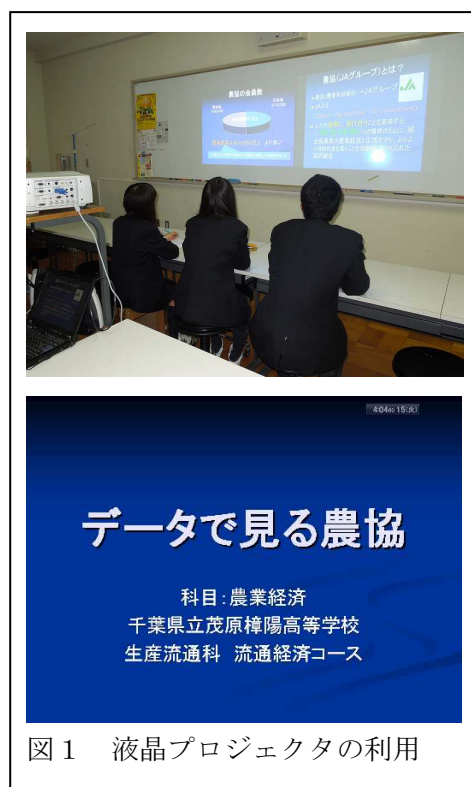


図1 液晶プロジェクタの利用

イ 映像コンテンツのライブラリ構築と評価方法について

テレビやWeb 動画等の映像コンテンツを、農業経済の授業に活用できるよう工夫し、授業に活用できる内容のものを選別し、各単元・項目に関連づけて対応表に整理した(表1)。特に経済新聞社主催の番組や、NHK 等のドキュメンタリー映像は、グローバルかつタイムリーで、教育的な内容が多くあり、生徒の興味・関心を大きく引き出すことができる。また、映像機器も従来のような録画だけではなく、HD や DVD-R 等の記憶媒体に、デジタルデータとして編集・記録が容易かつ高速にできる。テレビ番組の著作権の取り扱いについては、下表の通りである。

【放送コンテンツ適正流通推進連絡協議会HPより】

「学校の授業で利用するためであれば、録画したテレビ番組を上映することができます。営利を目的としない教育機関では、教育を担当している教員が、テレビ番組の著作権や著作権隣接権を持っている人たちに、許可なく録画し、授業で上映する事が出来ます。」

著作権法例外規定第 35 条「学校その他教育機関における複製等」

(ア) 映像ライブラリを活用した授業のメリット

- a 映像・音声を通じて、興味・関心を引き出せる。
- b 授業では表現できない社会や流通の現場の様子などを紹介することができる。
- c データを蓄積し、次年度以降も活用でき、再構築もできる。

(イ) 映像ライブラリを活用した授業のデメリット

- a 視聴、編集、教材作成の手間がかかる。
- b 視聴覚室やコンピュータ室等、視聴するための環境を整える必要がある。
- c 興味の無い内容で関心を示さない生徒もいる。

(ウ) 映像ライブラリを活用した授業の留意・改善点

- a 50分の授業時間のうち、15～20分程度の視聴に留め、内容や感想・意見をレポートにまとめたり、発表したりするようにする。
- b 評価はレポート・ワークシートを活用し、科目の内容と大きく違わないように、必ず補足説明を入れる。
- c 経済データに基づいたドキュメンタリー映像を中心とし、政治的な内容のものや、宗教的な内容のものは事前にチェックして流れないように工夫した。



図2 活用したコンテンツ

【授業の各単元で活用できる映像コンテンツ対応表 表1】

	単元	項目	対応する番組と内容		
			番組	放映日	内容
1	我が国の農業と世界の食料需給	農業と国民経済	NHK スペシャルヒューマン第3集 大地に種を蒔いたとき	2012. 2.	農業と経済の始まり
		世界の食料需給	第 435 回日本の食卓を守れ！ サンマ・ソバ・小麦に迫る危機	2010. 9	ロシアショック ベトナム
		農業と国際経済事情	第 408 回世界で儲けるニッポン 農業！大航海時代を生きる	2010. 3	青森リンゴ 博多あまおう

(内容の範囲や程度) 農業と食品産業が我が国の経済活動において果たしている役割, 国際的な食料需給の動向が我が国の農業と食品産業に与える影響などについて基礎的な内容を扱うこと。					
2	食料供給と農業及び食品産業	農業生産の役割と特徴	第 362 回地方力を発掘せよ! 密着特産品ハンター	2009. 4	地産地消から地産外消 電子物産市
		食品産業の役割と特徴	第 429 回価格 VS 個性ココまで来た新外食戦争	2010. 8	
(内容の範囲や程度) 食料消費の形態と動向並びに食料供給における農業, 食品製造業, 食品流通業及び外食産業の役割と動向について基礎的な内容を扱うこと。					
3	農産物の需給と価格形成	農産物の需要と供給	第 516 回地域スーパーの最強戦略独自の激安&凄腕バイヤー	2012. 5	スーパーマルエイ ケイホク
		市場の原理と価格の形成	第 536 回ここまで進化していた激安スーパーの秘密	2012. 10	びっくり市場 トライアル
(内容の範囲や程度) 価格形成の原理として需要と供給の変動の要因及び市場の役割を具体的に取り扱い扱うこと。					
4	農産物の流通と経済	流通の構造と機能	第 352 回物流が消費を変える! 運ぶだけから脱却せよ	2009. 2	物流システム トラック販売
		農産物・加工食品と農業生産資材の流通	第 519 回頭打ちを突き抜ける! 老舗企業驚きの大変身	2012. 6	マルコメ味噌
			第 499 回進化するスーパー群雄割拠を生き抜く革命児たち	2012. 1	業務スーパー
		金融と保険	NHK スペシャルヒューマンそしてお金が生まれた	2012. 2	
(内容の範囲や程度) 主な農産物・加工食品と農業生産資材の流通構造及び流通に必要な金融と保険について基礎的な内容を扱うこと。					
5	農業生産の組織と食品産業	農業協同組合	第 410 回熱戦! 道の駅パワー 地方の力が集結する新拠点	2010. 3	富士楽座 農協
		農業生産組織と農業生産法人	第 544 回ヒット商品を生み出す日本の農家	2012. 12	農業生産法人と 6 次産業化
		食品企業	第 480 回老舗メーカーの逆襲世界市場へ打って出る	2011. 8	カルビー食品の世界市場への進出
(内容の範囲や程度) 販売事業や信用事業など農業協同組合の事業, 共同出荷など生産組合の事業, 集落営農などの農業生産組織や農業生産法人, 食品企業の運営及び経営について基礎的な内容を扱うこと。					
6	農業と情報	農業情報システム	第 553 回あなたにも繁盛店が作れる ipad 青果店	2013・2	情報端末で生産者と消費者が直接繋がる
		情報の管理と活用	第 508 回活況! ネット通販	2012. 3	楽天
(内容の範囲や程度)					
7	農業・食料政策と関係法規	農業・食料政策	農業の成長戦略「所得倍増」 農地集積を急げ	2013・4	アベノミクス 成長戦略
		農業経済と関係法規			
(内容の範囲や程度) 農業政策及び食料政策とその関係法規の概要を扱うこと。					



映像ライブラリを使った授業については、ワークシートを活用し、2年次10時間実施した。また、評価方法についてはレポート（図3）を提出させ、内容について4段階の観点別評価を行った（表2）。レポートには①主題（タイトル）②内容③感想を自由に記入させた。さらに、教科担当者からの講評を加えて生徒に返却し、添削、検印の後、合格・再提出を行った。

レポートやワークシートを記入する時間が十分取れない生徒に対し、期限を設け提出・評価するよう配慮した。

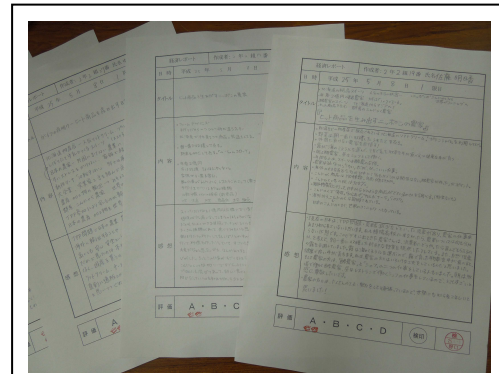


図3 評価レポート

『農産物需要の動向「産直・地産地消」』ワークシート

～熱戦！道の駅パワー 地方の力が集結する新拠点～を視聴して

2年3組 番 氏名（ ）

1 消費者ニーズの高まり（産直について）

「農」と「食」の距離拡大が進む中、消費者と生産者の顔が互に見える取引によって、「（ ）で（ ）な食料の確保」という消費者ニーズが高まっている。それに伴い、農協などの生産者団体と消費者生活協同組合などの消費者側が、（ ）などの中間流通業者を経由しないで、直接契約取引をする（ ）＝産直（略）が増加している。

2 「地産地消」とはどのような事ですか？

3 全国にある「道の駅」で行ったことがある県とその駅名を上げてみよう

（ ）県（ ）県

4 「道の駅」の事業にはどんなものがあるかまとめよう

5 「産直・地産地消」について自分の考えをまとめ、発表しよう

	評価の観点	評価
1	産直の意味について理解できたか	A B C
2	地産地消の意味について理解できたか	A B C
3	道の駅の事業について理解できたか	A B C
4	産直・地産地消について自分の考えをまとめ適切に発表できたか	A B C



地元：道の駅

「 」



授業の感想



【レポートのまとめ 発表の様子 図4】

【レポートの観点別評価表 表2】

観点別	評価項目	評価
興味・関心	授業主題の把握度	A よくできた B できた C ふつう D できなかった
興味・関心	番組の内容理解度	A よくできた B できた C ふつう D できなかった
思考・判断力	論点の明確さ	A よくできた B できた C ふつう D できなかった
思考・判断力	論理の一貫性	A よくできた B できた C ふつう D できなかった
思考・判断力	着目点	A よくできた B できた C ふつう D できなかった
思考・判断力	独創性	A よくできた B できた C ふつう D できなかった
表現力	文章構成力	A よくできた B できた C ふつう D できなかった
表現力	文字や表現の正確さ	A よくできた B できた C ふつう D できなかった
講評	検印	提出 ・ 再提出

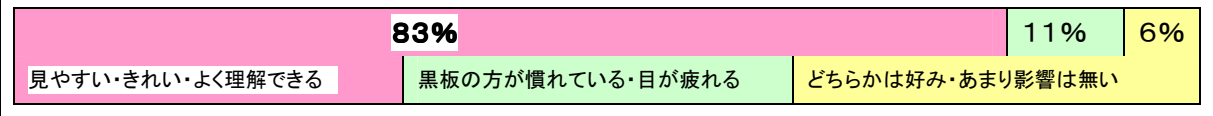
- ・日本の農業は世界に誇れるものだと感じた。
- ・経営者は消費者のニーズを常に考えていることが分かった。
- ・デフレについてよく理解できました。
- ・スーパーの裏側や農産物の仕入れの方法がよく分かった。

ウ ICTの活用についてのアンケート実施

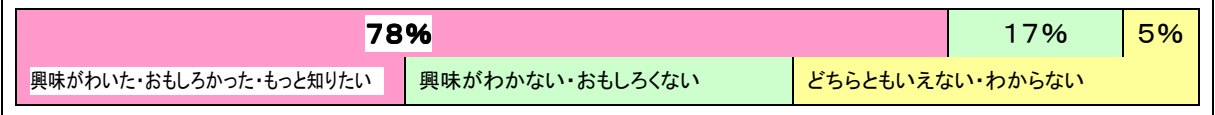
ICTの活用について、2年次の授業実施後3月にアンケートを実施した。

(ア) アンケート結果

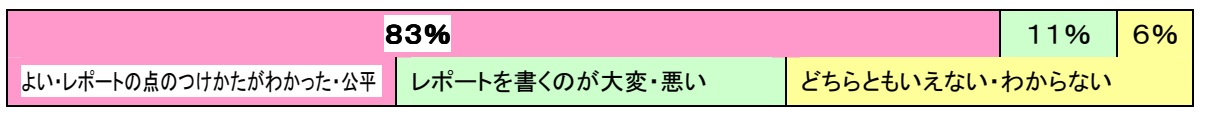
Q 1. 黒板とプロジェクタを使った授業を比較してどうですか？



Q 2. 映像を使った農業経済の授業について興味・関心がわきましたか？



Q 3. レポートでの評価についてはどうですか？



(イ) 考察・評価

アンケートの結果、プロジェクタを使った授業については8割以上が「よく理解できる」との回答が得られた。黒板を使った授業との比較で、「黒板のほうが慣れていて・どちらかは好み」と答えた生徒も15%以上いた。視覚効果が良い影響を及ぼす反面、普段見慣れた黒板を好む生徒もいるといえる。映像を使った授業について、「興味がわいた・よかった」との回答は8割弱で、「興味がわかない・どちらともいえない」と答えた生徒も2割以上だった。映像が興味・関心を引き出す効果大きい反面、依然興味を示さない生徒も存在することがわかった。

レポートでの評価についての質問では、「よい」と答えた生徒が8割を占めた。文章を書くのが苦手という生徒も多く、丁寧に指導していけば、更に高い値になると期待される。



### (3) N I E (新聞活用学習) について

#### ア 授業への新聞活用

授業への導入として、生徒一人に一部ずつ新聞を配布し、自分に興味がある記事を自由に切り抜きスクラップさせた(図5)。普段から新聞を読まないという生徒が多いので、まずは新聞に親しむところからスタートした。新聞の構成や見出しの見方を理解するうちに、しだいに他の記事にも興味を示すようになってきた。その後、「農業」や「食品」と指示した内容の記事に限定するようにした。切り抜いた記事は、クリアファイルとスクラップブック、あるいは発表用ボードに貼り付け保存・活用できるようにした。(図6)



図5 学習の様子(スクラップ)

#### (ア) 新聞活用のメリット

- a 教材としてタイムリーな話題を提供でき、生徒の興味・関心を高めることができる。
- b 新聞に親しむことにより、情報の取捨選択、活用、発信する能力を養うことができる。
- c 言語学習の入り口として最適である。
- d 社会人として時事問題に接することができる。
- e 活字に親しむことができ一般常識が身に付く。

#### (イ) 新聞活用のデメリット

- a 指導者が常日頃から新聞に目を通し、情報収集が欠かせない。
- b 新聞記事を授業で活用する場合、最小限の活用は認められているが、写真などには著作権が存在するものがあり、ガイドラインに基づき、事前に使用許諾を申請する必要がある。

#### (ウ) 新聞活用の留意・改善点

- a 教師側で、教材として使えそうな記事を日頃から切り抜き、スクラップを作成しておく。
- b 新聞は一般紙を使用し、特定の新聞(政党や宗教関係)は避けるようにする。
- c 生徒の活動は一斉学習だけでなく、グループ学習を取り入れる。
- d 必要に応じて、複数の新聞を比較して読む活動を取り入れるようにする。
- e 生徒がワークシートに記入したり、考えや意見を記入したりする時間を確保する。

#### イ 授業展開

単元「農業生産の組織と食品産業」、「農業協同組合」についての授業を3学期に実施した。1グループ3人×6班のグループ学習とし、協力してまとめ・発表できるようにした。また、授業で活用した新聞の切り抜き(表3)は予めグループ人数分を用意し、ワークシートを配布した。記事を読む時間を十分に取り、記事を読んでいる時の集中力や態度も大切であることや、興味・関心があることについては、積極的に質問・意見を発することが重要であることも事前に指導した。またグループでの学習となるため、まとめや発表まで協力して進めるようにした。



図6 スクラップブックの活用

「農業協同組合（JA）」ワークシート

2年3組 番 氏名（ ）

1 JAとはどんな組織ですか

農協とは人々が連帯し、助け合うことを意味する「（ ）」の精神のもとに、組合員農家の農業経営と生活を守り、よりよい地域社会を築くことを目的としてつくられた（ ）

2 JAの主要4機関をあげなさい

（ ）（ ）（ ）（ ）

会員数と准会員数の割合はどうなっていますか

3 JAの事業にはどんなものがあるかまとめよう

4 JAの事業についての自分の考えをまとめよう

	評価の観点	評価
1	JAの意味について理解できたか	A B C
2	JAの組織について理解できたか	A B C
3	JAの事業について理解できたか	A B C
4	JAの事業について自分の考えをまとめて適切に発表できたか	A B C



授業の感想

農業経済指導案

日時：平成25年月1日16日（水）1限 場所：簿記室

対象：生産流通科2年3組流通経済コース18名 グループ学習3人×6班

単元：農業生産の組織と食品産業 農業協同組合 教材：教科書、切り抜き、ワークシート

I 授業のねらい

- (1) 農業協同組合（JA）の組織について理解する
- (2) 記事の感想，意見を書く

II 授業構成（週2時間扱いの2時間目）

指導内容	学習活動	備考
1 JAとは	JAについて記事から調べ書き出す	ステップ1
2 JAの組織について	JAの組織について調べ書き出す	ステップ1
3 JAの事業について	JAの事業についてまとめる	ステップ2
4 JAの事業について	JAにはどんな事業があるかを発表する	ステップ3
5 JAの事業について	JAの事業について自分の考えをまとめる	ステップ2
6 JAの事業について	JAの事業についてグループで発表する	ステップ3

III 評価の観点

- (1) 農業協同組合の組織について理解できたか（知識・理解）
- (2) 記事の感想・意見が書けたか（思考・判断・表現）

【授業で活用した新聞の切り抜き 表3】

※読売新聞朝刊より

	新聞名	日付	朝夕	面	大見出し・中見出し	内容
1	読売	2011. 1. 12	朝刊	2	農業開国 データで見る農協 組合員 957 万人「農家」の 3.6 倍	J Aは全国に「支社」を張り巡らせた商社 であり、巨大な金融機関でもある。
2	読売	2011. 1. 13	朝刊	2	農業開国 データで見る農協 7 兆円越す巨大「商社」機能	J Aグループの主な事業に販売事業と購買 事業がある。販売事業規模は 4 兆 3480 億円。
3	読売	2011. 1. 14	朝刊	2	農業開国 データで見る農協 貯金・共済 120 兆円動かす	預金残高は地域 JA の合計で 8 3 兆円。みず ほ 6 6 兆円、三井住友 7 0 兆円を凌ぐ規模。
4	読売	2011. 1. 16	朝刊	2	農業開国 データで見る農協 農地の違法転用 年 8000 件	J Aと並び農業を支える役割の組織として 農業委員会がある。耕作放棄地が増加しこ の農地は一般の土地と見分けが付き難い。
5	読売	2011. 1. 18	朝刊	2	農業開国 データで見る農協 税制優遇 法人税は 2 2 %	設立当時は小規模農業者の相互扶助の色彩 が濃かったが、今は農業者以外が半数。

## イ 学習活動のステップ表の導入と評価方法について

学習活動のステップ表をもとに、具体的な活動の手引きとした。新聞記事を使った学習活動を段階的に提示することにより、学習指導案やワークシートを作成する時に役に立つと考え、3つのステップを設定した。ステップ1では新聞記事の内容を理解することから始め、ステップ2では内容をさらに把握するために自分なりにまとめる。ステップ3では記事についてまとめた内容や自分自身の考えや意見について発表する。発表以外に、書いて報告したり、出てきた考えや意見について討論したりする活動を取り入れるようにした。

	ねらい	学習活動
ステップ1	教材として、タイムリーな話題を提供できるので、生徒の興味・関心を高めることができる。	記事を読んで内容を理解したり、関連記事について調べたりする。 <b>興味・関心</b>
ステップ2	記事の内容をまとめることを通して、理解が深まり、生徒自身が意見などをもつことにつなげることができる。	記事の内容について自分なりに理解したり、調べたことを自分なりにまとめたりする。 <b>知識・理解</b>
ステップ3	自分の考え（意見）をもつことができる。 自分の考え（意見）を発表（報告、討論）ができる。 発表（報告、討論）を通して、他の生徒の考え（意見）を知ることができる。	記事の内容についてまとめたり、自分の考えや意見について発表（報告・討論）したりする。 <b>思考・判断・表現</b>

## 【発表の内容】

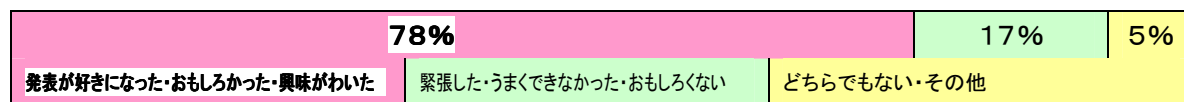
- ・ J Aは本来農家のための組織なのに農家でない会員の割合が半分もいるのに驚いた。
- ・ J Aの事業には農業とは直接関係のないものも多い。
- ・ 金融では大手銀行よりもすごい。

## 【アンケート内容】

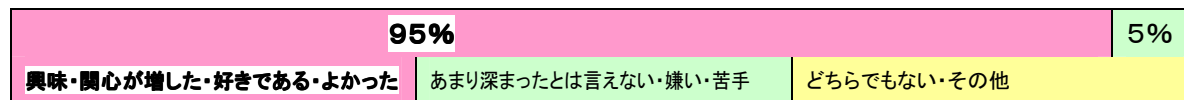
## Q 1. 新聞を使った授業はどうでしたか？

<b>83%</b>	<b>12%</b>	<b>5%</b>
好きになった・おもしろかった・興味がわいた	活字が苦手・目が疲れる・おもしろくない	どちらでもない・その他

## Q 2. 新聞を使って発表・表現する力がつきましたか？



## Q 3. 農業経済についての興味・関心は深まりましたか？



### 5 研究のまとめと今後の課題

本研究では本校生産流通科の目標と現状を踏まえ、平成24年度から科目「農業経済」についての効果的な展開と指導方法として、生徒の実態に合わせた授業改善、ICT（情報通信技術）の活用および、NIE（新聞活用学習）について、流通経済分野の興味・関心を深める授業改善とその評価方法について研究を行ってきた。その結果、科目の目標の達成、および充実を図ることができた。また、生徒の実態として専門教科に対し、「あまり理解できない」、「難しい」という理由で「興味がわからない」、「おもしろくない」という授業の展開方法を、映像コンテンツにより引き出していく方法を確立することができた。今回の新学習指導要領改訂の要点である、「言語学習の充実」についても、新聞を活用することにより、調べ・まとめ・発表する方法を確立した。レポート評価についても、ワークシートや評価のステップ表に基づいた評価基準を作成し、明確にすることができ、発展させることができた。

今後は、ICTについては、電子黒板や個人情報端末を活用した授業、デジタル教科書などのデータ配布について既に試行の段階である。これらの情報通信技術の進歩に合わせ、授業改善に取り入れるよう積極的な姿勢が重要と考える。

NIEについても、今後は高等学校の各教科でも導入が進む。小中学校では既に一定の成果をあげており、この手法を積極的に取り入れ授業改善に継続して生かせるよう努力したい。

### 6 おわりに

教科研究員として、このような研究の機会を与えていただいたことに大変感謝しています。当初は研究全体のイメージがつかめず、どのように進めてよいのか試行錯誤の連続でした。過去の研究員の方々がまとめられた研究成果を拝見し、諸先生方からヒントやアドバイスを頂きながら進めるうちに、研究の道筋を見つけることができました。

このような機会を得て、今後は自らの学習指導、教材研究に生かすことは勿論、日頃から他の教師の教材、指導方法に目を向け、研鑽を続けていくことが重要だと再認識しました。

最後になりましたが、千葉県教育庁教育振興部指導課指導主事 ○○ ○○ 先生、教科指導員（農業）千葉県立○○○○高等学校 ○○ ○○ 先生をはじめ、教科研究員の先生方ならびに御指導・御協力いただきました関係諸先生方に深く感謝申し上げます。

### <参考資料・引用文献>

千葉県教育庁教育振興部指導課 高等学校教科研究員研究報告書（農業）

平成18・19～22・23年度

NIE実践ヒント・ワークシート集 晩成書房